

あさひ

合併10周年記念特集



< わが町を特徴する朝日岳の雄姿 >

1 朝日町の生いたち

2 新生朝日町の発足と、選挙、議会、
行政機構のうつりかわり

3 人口動態と町民所得の推移

4 交通 通信 電力 消防

お
も
な
内
容

5 民生の歩み

6 産業の発展と観光の開発

7 建設事業のあらまし

8 学校教育と社会教育

わが朝日町の躍進を期して



朝日町議会議長
小坂 満



朝日町長
本村 本松

今日、社会経済の進展は実にめざましいものがあります。このときにおいて、十年の基礎段階を過ぎました。朝日町はいよいよその成長期に入ることと信ずるのであります。私はとくに今日十年の試練と経歴を基礎とした町政を真剣に考察する時期でもあると考えられるのであります。

併の偉業を成し遂げられました先賢各位、並びに深い理解をもって幾多の困難を克服してまいりました町民各位に対し、深く敬意を表するものであります。

本町が発足いたしましたから十年を閲し、今日着々と伸張の一途をたどりつつありますことは、町民各位と共に実に喜びにたえないところであり、合

議員、関係者の皆さんの献身的な努力が実って、この困難性を排撃して大同団結ができたもので、このために努力なさった各位の偉大な功績に対しては

昭和二十九年八月一日に泊町、山崎村、大家庄村、南保村、五箇庄村、宮崎村、境村が合併し、その後野中村を加えて朝日町の誕生を見てから満十年の記念すべき日を迎えまして感慨ひとしおのものがあります。その当初は処々に合併して新しい町ができたとは云え、当時は地域も広く、各町村の実態を見ると、海岸地区、山間地区、平地地区とそれぞれの状況が異なり、経済力にも差違があり、境川から棚山まで長大な地勢はなかなか困難性があつたのであります。

深甚なる感謝の意を表する次第であります。合併後十年間における朝日町の歩みを見ると、新しい町づくりの仕事が進められ、道路、橋梁の建設改良は広い地域を時間的にも接近させ、お互いに親近感を持つようになり、支所等も廃止、町の一体化を促進し、朝日町建設の基盤ともなっているものであります。教育への重点施策は人間尊重の顕現でもありまして学校統廃合が行なわれ、今後においても合併の重要な課題として実施を見ることであります。

産業部面の振興についても、十年の年月は、あらゆる点に長足の進歩を見ています。惜しむらくは沿岸漁業の不振でありましたが、これは朝日町だけの問題ではなく、今後に残された大きな課題でもあります。

境川の電源開発がなされて、町の進展に寄与しています。越道方面の奥地林道の開発は更に朝日ルート線の完成に、国鉄復線電化も近く実現され、町の観光資源が充分開発される機会が与えられ、天然資源の各種開発と相まって朝日町は大きく飛躍発展されることが約束されているものと確信し、町民各位並びに町外各位のたゆまぬ協力を偏にお願いする次第であります。

本町は、地理的な条件や、また産業構造の上からしても、実に多岐多様なものがあります。新潟、長野、両県に接し、経済的にも文化的にも、また、交通上にもさぶる重要な要素をもっております。

現下においても、鉄道の複線化や国道の整備が進められ、またいわゆる産業道路の新設等も計画されておられ、さらにまた、低開発地域工業開発促進法の適用を受けて、先進都市との経済的格差を縮小しようといたしておりますこともご案内のとおりであります。

このような中であつて、本町多年の願望である電源開発の推進、または、天然ガスの開発をはじめ、町政は積極的な施策が講ぜられてまいりましたが、一つ残念なことは、今次の工場誘致の不成功であります。急転したこの事態の收拾については、全力をあげてあたり、そして今後は苦しい経験にかんがみ、充分留意し、なお、さらに、農工併進の基本方針の達成に努力いたさなければならぬと考えるのであります。

合併十周年を記念されるにあたり、今後ますます責任の重大なものがあることを痛感いたしますのであります。町議会は町民各位と共に本町の一層の発展と町民生活の向上にまい進したいと存するのであります。町民各位の絶大なるご協力をお願い申し上げます。

朝日町政十年史

- ◎昭和二十九年
八、一 朝日町発足（一町六カ村合併）
- 八、二九 町議会議員並びに町長選挙執行（議員数三十六名）
- 九、九 朝日町初議会
- 一一、三 合併祝賀式典挙行
- 朝日町章きまる
- 第一回町民体育大会開催
- 一一、二〇 野中村編入
- 一一、一八 町議会議員補欠選挙執行（野中村編入に伴ない議員数四十人）
- ◎昭和三十年
五、一 役場機構改革（併せて行政整理を行なう）
- 六、二〇 広報「あさひ」創刊号発刊
- 七、二〇 教育委員会委員選挙執行（委員数四名）
- 九、一 宮崎支所廃止（宮崎自然博物館に）
- ◎昭和三十一年
五、二〇 財政再建法の適用をうける（以後八年度間に財政を再建することとなる）
- ◎昭和三十二年
五、二〇 金庫制度実施
- 七、一六 農業委員会委員選挙（従来八地区に設置された委員会を統合、委員数四百四十名を四十八名に）
- ◎昭和三十三年
三、一七 町民大会開催（野中分離反対の決議なる）
- 八、二〇 町議会議員並びに町長選挙執行（議員数四十名）
- 一〇、一 建設課を設け、議会には事務局を置くこととした
- 一〇、一九 三笠宮妃殿下を迎え第十三回国民体育大会準硬式野球大会を開催
- 一一、一〇 町民相談室設置
- 一一、一九 野中地区の分離投票が行なわれた
- 一一、二八 野中支所廃止
- ◎昭和三十四年
一、一 野中地区の一部分離
- 八、一 大家庄、南保、五箇庄支所を廃止
- 一一、二六 朝日町管内の電話を朝日局に統合
- 一一、二八 山崎、境支所廃止
- ◎昭和三十五年
四、一 泊中学校及び境中学校統合
- 六、一 消防団の分団再編成（従来の九分団を六分団に）
- 一一、二 森林組合の統合なる
- ◎昭和三十六年
九、一五 泊病院に新産児室を設置
- 一一、三〇 町営造林二十七町歩造成
- ◎昭和三十七年
二、五 役場事務機構改善（窓口を一本化して住民サービスの向上を図る）
- 八、一八 町議会議員選挙並びに町長選挙執行（議員数二十四名）
- ◎昭和三十八年
二、一 役場機構改革（町長室新設）

朝日町の生いたち

越中の東の国境として、交通上、戦略上北陸道の要衝にあたり、宿場町としても早くから開墾された泊を中心とする、愛本、舟見、野中、大谷、山崎、南保、五箇庄、宮崎、境の泊区域十カ町村は、古くから行政上密接な関係にあった。

町政10年のあゆみ

太平洋戦争が終わってわが国の復興が急速に進み交通文化が向上してくると、よりよい発展を期するため町村規模の適正化が叫ばれるようになり、町村合併促進法が制定されて、町村合併の気運が全国的に高まったところから、泊区域合併の動きも次第に活発になり、う曲折はあったが、昭和二十九年八月一日、区域のうち大谷庄、山崎、南保、五箇庄、泊、宮崎、境の一町六カ村が大同合併を実現して、町名は北アルプス中の名峯朝日岳を仰ぐ景勝の地であるところから朝日町と呼称し、新発足したのである。

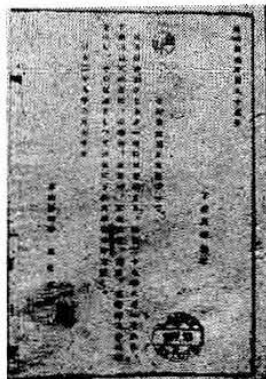
一足遅れて、同年十一月二十日野中村が編入されて、ここに面積一四六・七六平方キロ(以下面積については国有林地帯を除く)人口二四・七七二人、世帯数四、八七七の県下有数の大町ができた。

その後、野中地区の一部が舟見町に合併するため分離し、面積一四三・七八平方キロ、人口二二、八五〇人世帯数四、五六五となって現在に至っている。

このようにしてできあがった県境の朝日町は、農業を主産業として、海に、山に数々の名産物を貯え、豊富な観光資源に恵まれて、電源開発や地下資源の開発等、洋々たる前途に向かって新しい町造りを進めている。

新町発足と選挙

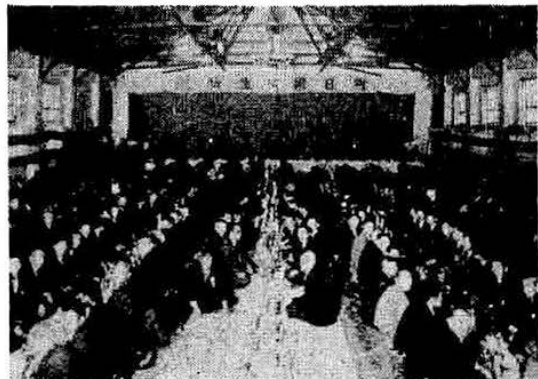
新町初の町議会議員及び町長選挙は、昭和二十九年八月二十九日に行なわれた。



選挙区と議員定数

大谷庄選挙区	五名
山崎選挙区	五名
南保選挙区	四名
五箇庄選挙区	四名

〆廃置分合書



泊 選挙区	一名
宮崎選挙区	四名
境 選挙区	三名
計	三名

つづいて、野中村の編入に伴ない、議員定数を四十名に改め、補欠選挙により野中選挙区より四名の議員が選挙された。

選挙区制の廃止と議員定数

昭和三十三年八月従来の選挙区を廃止し、議員定数を二十四名に縮小した。

町長

二九、八、二九	金森 吟
三三、八、二〇	本村 本松
三七、八、一八	本村 本松 再選



初代町長 金森 吟氏

正副議長

(議長)	(副議長)
二九、九 清水伝平	米田吉二
三一、九 清水伝平	柚木文次
三三、九 米田吉二	岩谷健次
三五、九 清水伝平	柚木文次
三七、九 小坂 満	酒井 栄

議会の委員会

議会の常任委員会は当初、総務、文庫、建設、農林、商工水産の五つの委員会が設置されて、それぞれの分野で活動されていたがその後改廃があり、総務、厚生、産業、建設の四委員会となって現在に至っている。

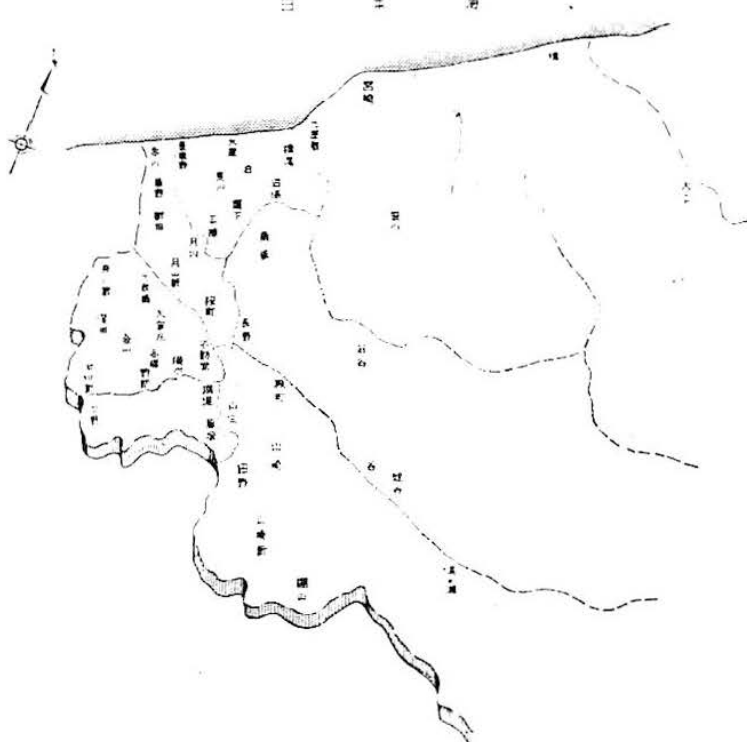
重要事件等付託のため、特別に設

執行部の機構

新町の庁舎は、旧泊町役場の一部を改築してこれにあて、企画、収入役の二室、総務、財務、税務、民生建設、農林、商工水産の七課および教育委員会事務局をおき、関係旧町

けられた委員会のうち主なものは次のとおりである。

- 条例規則調査特別委員会
- 財政、会計特別委員会
- 野中問題特別委員会
- 行政区画特別委員会
- 総合開発特別委員会
- 海岸浸食対策特別委員会
- 工場誘致特別委員会
- 豪雪対策特別委員会
- プール建設特別委員会





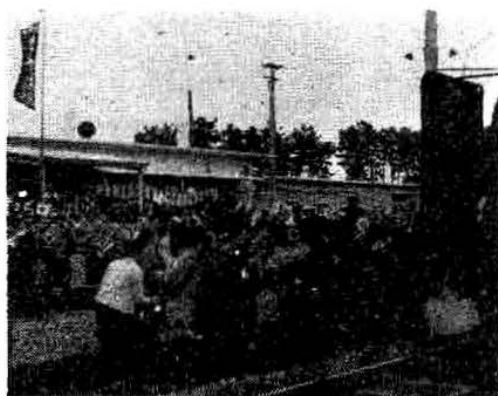
(右下) 境川第一発電所 (35.3)
(左上) 境川第三発電所 (35.3)
(右上) 境川第二発電所 (37.1)

電力、交通、消防、通信

発電所名	最大出力 KW	年間発生電力量 KWH	送電先
境川第一発電所	5.100	25 230	東北電力へ一 部送電し、他 は朝日町へ
境川第二発電所	5.100	26 860	
境川第三発電所	6 700	35 200	
計	16 900	87 290	



昭和三十三年十月一日越中宮崎
駅が新設され、産業、観光開発
に一段の威力を加えている。

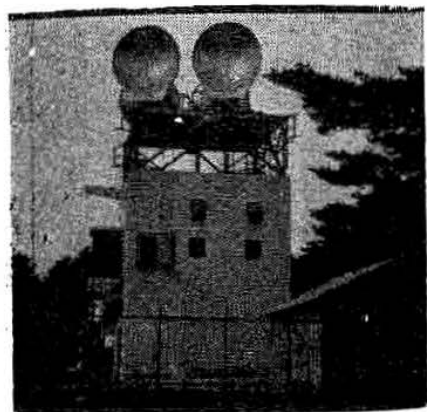


昭和二十九年八月一日町村合併と
共に、朝日町消防団が結成され、過
去十年間、町発展の歴史と共に、科
学消防の陣容拡充に力を注ぎ、町内
各地区に消火栓や貯水池の設置と共
に、近代的な消防車の配置等がなさ
れ、着々とその整備強化が行なわれ
てきた。

三十四年には消防本部に、三十七
年には旧地区にそれぞれジープ型消
防自動車の配置、三十六年には消防
本部に無線設備がなされ、機動力を
いっそう強化されるに至った。

その後も消防自動車及び小型動力
ポンプを各地区に増置し、この間、
県及び県消防協会より三回にわたり
優秀消防団として表彰をうけた。

朝日町消防十年史



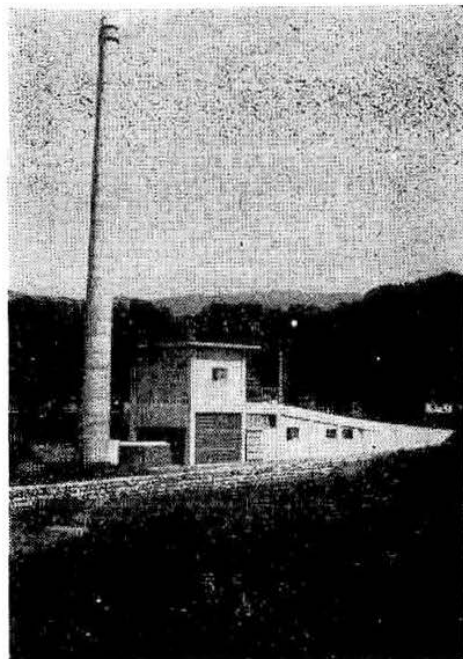
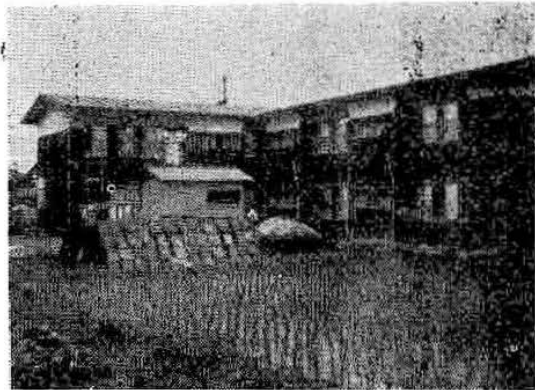
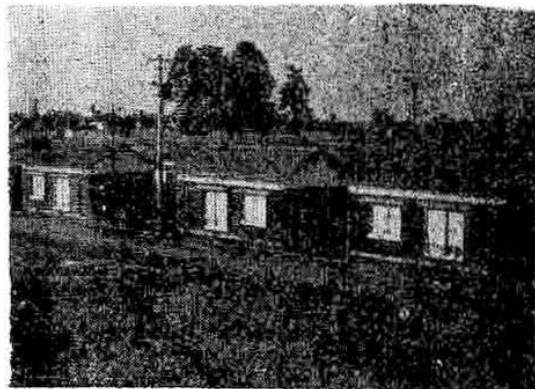
昭和34年4月1日から城山頂上にマ
イクロウエーブが開設され、テレビジ
ョンの全国中継、主要都市間の電話即
時化に役立っている。



公 営 住 宅 →

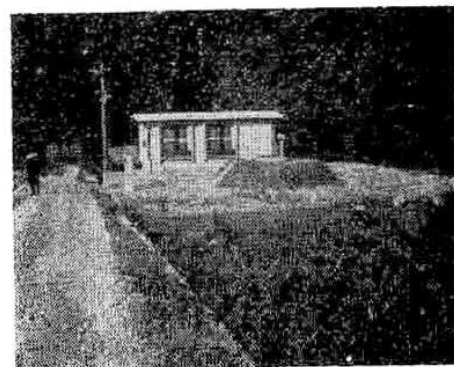
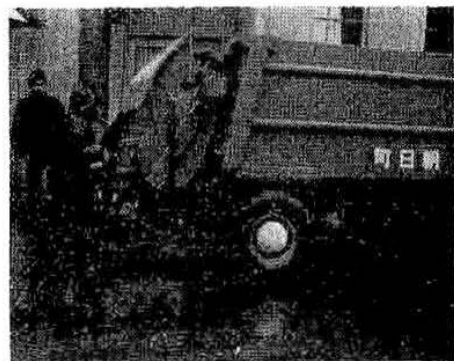
昭和37年より3カ年計画で桜町地内、敷地約2,300坪を確保し、昭和37年度第1種5戸、第2種15戸、工費960万円で建設し、続いて昭和38年度において建設費959万円で第2種20戸の建設を完了した。

さらに昭和40年度には10戸建設の予定である。



↑ 清 掃 事 業

昨年6月末に鉄筋コンクリート塵芥焼却場が完成、その焼却能力も1日に5.5トン、約11,000人分のゴミが処理できる。本年4月には塵芥車(1.5トン)を1台購入し、衛生都市づくりの第一歩を踏みだした。



↑ 簡 易 水 道

合併当時の簡易水道給水状況は、泊地区の横尾水道、南保地区の竹の内水道にすぎなかったが、その後、蛭谷、大家庄、空田舟川新、南保、笹川、境、大平の7カ所に設置し、現在9カ所、給水人口8,200人に及んでおり上水道計画も着々と進められている。

設され、小川、笹川、大家庄、境、南保、宮崎保育所六カ所が新設された。また、本年度は山崎保育所を新設の予定である。

児童の福祉増進を図るため設けられた春、秋二回の季節保育所は、現在山崎地区を中心に児童数一七〇名、七カ所に開設されている。

くらしを豊かにするために

→ 常設保育所

合併前は、泊第一保育園、泊第二保育園、桜町、赤川保育所の四カ所であったが、合併後、年々急速に増

→ 季節保育所

農繁期において、農耕や仕事に忙殺され、家庭における保育に欠ける

母 子 寮 →

従来2カ所に設置された母子寮を1カ所に纏め、昭和36年3月総工費3,875千円を投じて新築され、収容定員12世帯で、現在8世帯、21人が入所している。

→ 病 院

合併時の泊病院は県立で、内科、外科、小児科、産婦人科、耳鼻咽喉科、眼科、理療科の七科、収容定数一〇〇八人、当時の一日平均入院患者一〇八名、外来患者一六九名であった。昭和三十年四月県立から組合立泊病院として発足、三十四年四月町立となり、患者収容定数二二三人となる。三十六年五月産児棟を増設、定数一三一人となり現在に至っている。昭和三十八年度一日平均入院患者は一四九名、外来患者一五三名である。



イモチ病防除に活躍する
農薬撒布のヘリコプター
農業技術指導の中心機関
朝日町農業センターの偉容



農業

基幹作物は米である。早稲米地帯として関西市場から優遇され、毎年九月末までに十萬俵出荷は年中行事となっている。

終戦当時は収収基準一石八斗、供出割当におびえ、自家保有米まで供出した苦しい体験も遠い物語りとなって、昭和二十九年には反収二石六斗となり、町村合併十年を経た今日では反収三石二斗が平年作となった。

この反収をあげるためには、農業センターの設置、営農指導員の設置、農業改良普及員の駐在などにより、栽培技術が向上して最高反収四石八斗七升の成績を納めたが、農薬の負う役割りの大きいことも見のがすことはできない。

経済成長とともに農業機械の発達も目覚ましく、合併当時試験段階にあった動力耕耘機が、十年後の今日では七百五十台となり、山間の田畑にも軽快なエンジン音の音がこだま

し、農耕牛馬の数は特殊な湿地帯以外には見られなくなった。

また、電熱育苗、籾の乾燥なども乾燥機が使用され、脱こく調整はもちろん農作物の運搬にもトラクターが使用され、農業は機械化と省力農業が合言葉となっている。

補助作目には、花卉球根、そさい栽培などここ数年の間に急激な

伸びを示している。チューリップは合併当時二ヘクタール前後であったが、三十八年には八ヘクタールに増え、昭和四十五年までに五十ヘクタールに伸びず計画がたてられ、三十八年に舟川新に球根貯蔵所を新設して、優良球根の確保につとめている。

そさいでは三十七年にそさい振興会を結成して三十名の会員が共同育苗、共同出荷で小規模ながら堅実な歩みを見せている。

畜産では酪農、養豚、養鶏が主なものであるが、酪農では大家庄酪農、朝日牛乳、アルプス乳業の三者が昭和三十七年に合併して、集乳、処理、販売などを合理化して成果をあげている。

乳牛頭数二百二十頭前後で目立って増加しないが、役肉牛の育成団地造成で今後の増加が見込まれている。

養豚養鶏も価格の変動によって数量は一定していないが、向上線をたどっている。

新しい事業では三十八年度においてイモチ病防除の空中撒布を行った。富山県で初めての広域撒布で山間地を除いて全町撒布して、農業の近代化と労力不足の解消に一役を買い、ヘリコプター二機を使用し、撒布日程は五日間、撒布後の五日間は無菌状態でこの環境の中で安全出穂させるという生理的効果をねらったものである。

また、農機構造改善事業も三十八年度に指定をうけ、三十九年度から実施されることになり、桜町がその指定地区となった。

総工費九、九五六万円で、土地基盤整備五一ヘクタールと、近代化施設(籾乾燥施設等)とに分けて行なわれる。

一、森林組合の合併

山崎、南保、蛭谷、笹川、境の五つの森林組合が昭和三十四年三月に全町一森林組合結成の仮調印し、同年十一月朝日町森林組合が誕生した。

組合員数一、三二五人、出資口数五〇一六口、出資額一、五〇四、八〇〇円役員一八名職員三名で発足した。

二、治山事業

峻峻な山と多雨多雪の本町では治山治水事業は年々増加している。特に七重滝の大崩壊や奥石谷、池ノ原の地すべりなど、災害防止に多額の国費県費が投ぜられて

いる。

三、林道

林業経営の合理化は林道の整備にあるので、棚山、奥石谷、池ノ原等に通ずる林道の開設、改良、災害復旧を行なった。

四、奥地林道

北又谷流域の資源開発のため、小川元湯より二、三二六米の林道が県営事業で昭和二十九年に完成した。

つづいて昭和三十年から営林署の施行に移り、昭和三十八年までに一一、六〇九米が完成した。

総工費一四、二三四万円で、快適な自動車道路ができ、資源開発と観光を兼ね、一石二鳥の効果をあげている。

林業



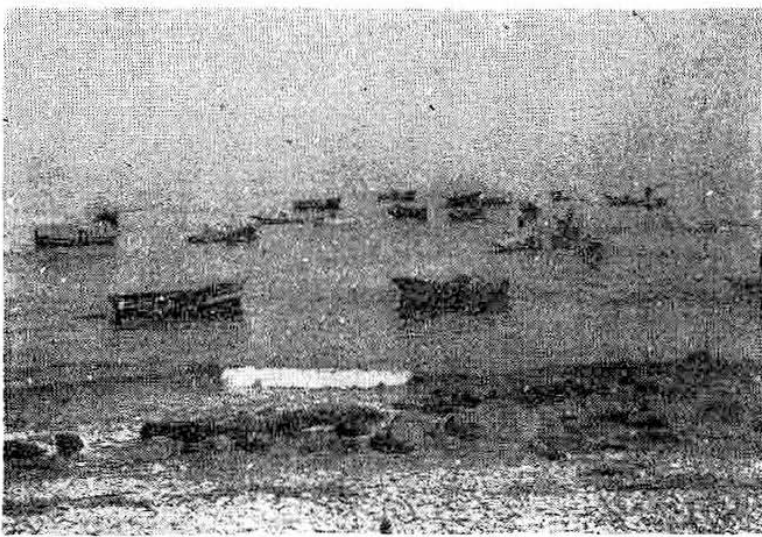
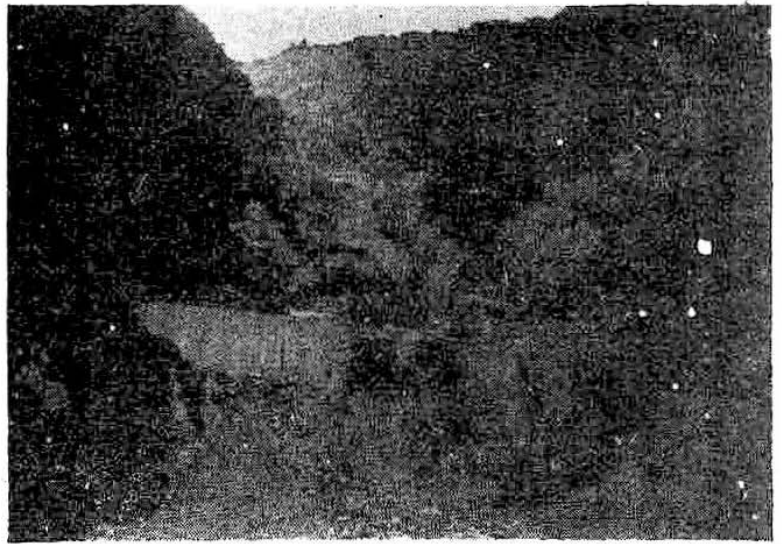
山林資源開発を目ざして
開通した花房林道
県営林コンクリート一位に
入賞した岩井谷町営造林



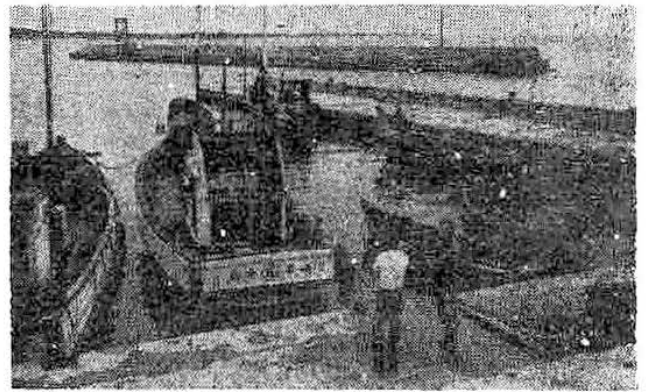


↑ 塩害防止と沿岸緑地帯の造成を目ざして、防潮林の育成 (泊海岸)

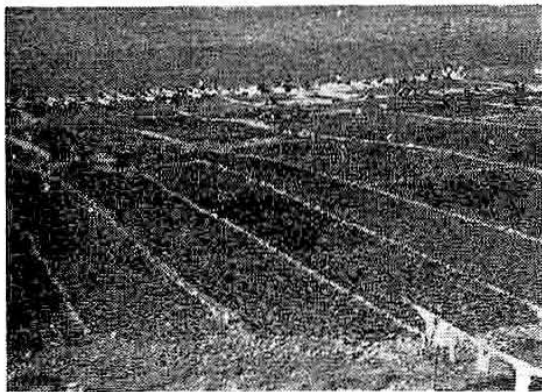
→ 笹川七重滝治山砂防堰堤の完成



← サイレンを台図に一斉に乗り出す
わかめとりの舟歌団

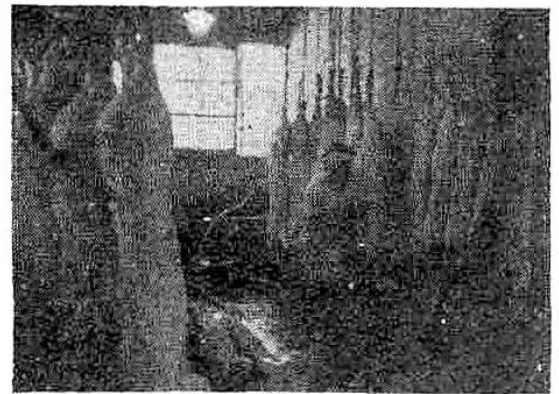


↑ 着々と近代的設備を整える宮崎漁港



← わら灰をまぶして伝統の加工を施されたわかめは美しい黒のじゆうたんを織りなしたデザインとなって砂浜に乾燥される

→ 町民の動物たん白源と脂肪の補給に活躍する朝日簡易と畜場



雄峰朝日岳頂上より立山連峰の眺望

観光朝日町は四季を通じて天然の観光資源に恵まれ、中部山岳国立公園の北端に位置する白馬岳から高山植物の咲き乱れる朝日岳を経て、北又谷、越道峠、小川温泉への登山コースはその変化に富んだ処女的な登山コースにふれつつ、登山の醍醐味が得られ、近年急速に利用者を増している。

また宮崎城跡城山を中心に天然記念物鹿島嶺、宮崎海岸一帯は、自然博物館となっており、館内には、名木、大樹が繁茂、また文化は古く古代人の遺跡、歴史的な神社仏閣と、これらに保存せられた文化財が数多くある。

観 動物が育成している全館観光地帯とな

光 高原の清涼な大気にふれ

泊小川温泉は泊の東部、馬りよう山麓にあり、大浴場をはじめ多くの大小家族風呂を有し、連日観光客で賑わっている。



→ 小川元湯天然岩風呂



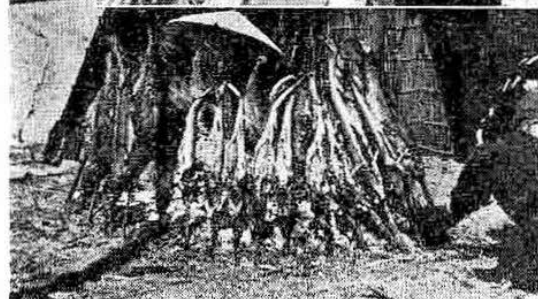
↑ 小川温泉元湯は湯量豊富で、風致に富む環境と大衆的雰囲気は全国的に知られ、旅館部、自炊部等150余室を有し、大、中広間、大浴場、家族風呂があり、今年4月には小川ホテルが完成、デラックスな客室23室が新設された。



← 松らい涼風宮崎城趾城山の眺望は富山平野と大嶮親不知を左右一望に収めることができる、またキャンパーのためのバンガローも設置されている。

観光

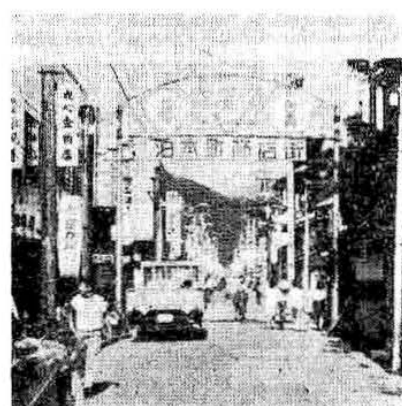
→ 海水浴場、タラの浜で有名な宮崎海岸は、連日のハイキング客、観光客で賑わっている。



↑ 宮崎浜、タラの浜焼き
朝日町の風物詩として、また旅の味として欠くことのできないものの一つである。



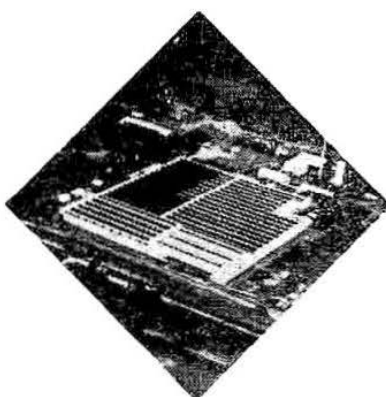
→ 釣りやキャンプに最適の棚山。ボート湖と遊覧も計画されている。



← 泊商店街通りの一部

商工

→ 日東紡績泊工場の全容



土木

合併後、まず最初に考えられたことは、町の一体化をはかるため、都市計画がなされたことである。

また、重点施策の一つとして橋の新設、架替に重点がおかれ、本年度をもって、過去五カ年に、十朝日橋新設を始め、既設の木橋を全部永久橋として架設された。

都市計画は、昭和三十四年六月、区域決定が終り、昭和三十五年街路の計画決定をき、昭和三十六年より街路の事業に着手した。

着手の際、路線の選定にあたっては、一体化というものが優先し、駅と小川左岸を結ぐ草野と大庄線が着工をみたもので、来年度をもって完成する予定である。

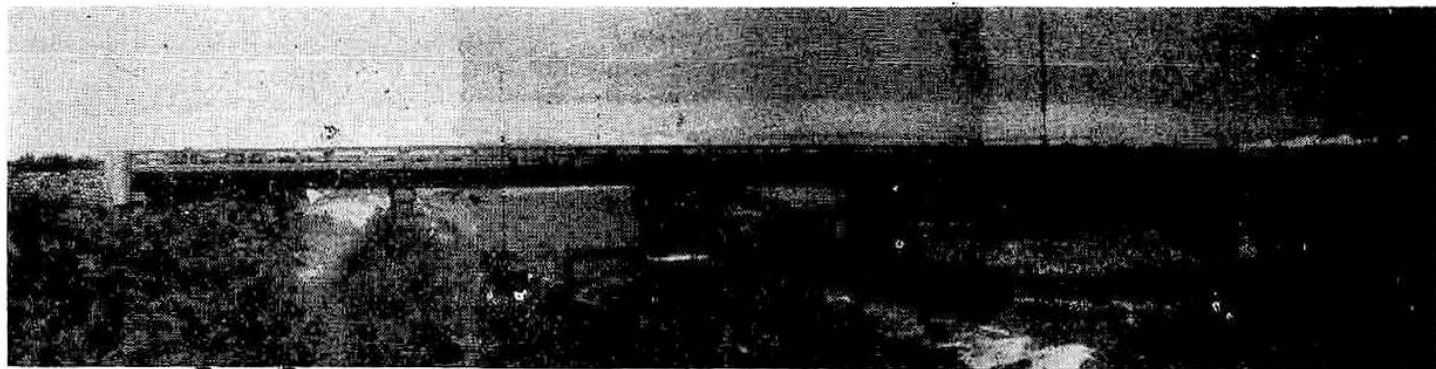
道路も橋もこんなによくなりました

次に過去十カ年間の災害の大きなものは、昭和三十四年八月、集中豪雨により、笹川、太流川が氾濫し、相当の被害が出たが、雨の特別補助により、以前の素堀りの川を練石積護岸として完成し、昭和三十六年の境地区金剛川の災害も県営事業として工事を施行し、完壁が期され、今日に及んでいる。

その他、町の総計画にも関連する園芸、県営の土木事業の内、特に、海岸浸食対策は、昭和三十六年以降草野、赤川海岸は国道直轄事業として工事が進められ、近く完成の予定である。

建設

月山～三枚橋を結ぶ朝日橋の偉容

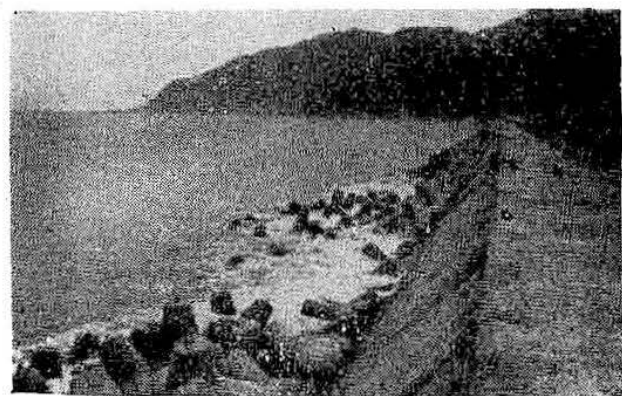
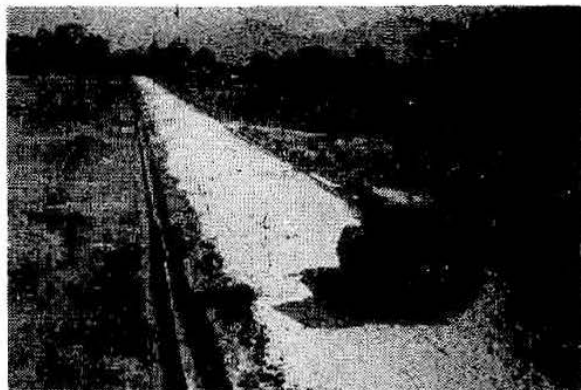


浸食された赤川海岸

橋梁

都市計画

街路事業の一環として完成した草野と大庄線



護岸

完成した大屋海岸の防波堤

→完成を見た国道八号線新小川橋より月山、平柳方面を望む

道路



失業対策事業

当町の失業対策事業は合併前の旧泊町時代の昭和二十五年より実施しており、当時失業者約五十名をもつて発足した。

事業の内容は土地整備事業(小丸山公園の拡張工事)や衛生施設整備事業(下水路の江漢が主で他に道路整備事業や農業用施設整備事業を実施し、町の直営工事として今日に至っている。)

なお、タール防塵工事(簡易舗装)は三米以上の町道約三十万平方メートルの内次頁図表のとおり一割にも満たないが、今後期待すべき事業と考えられる。

現在就労人員は三十二名で、事業費は次頁図表のとおりである。

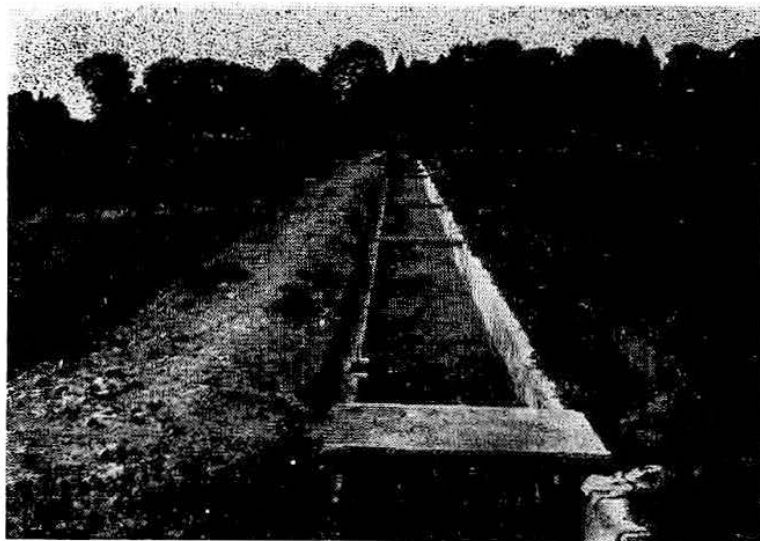
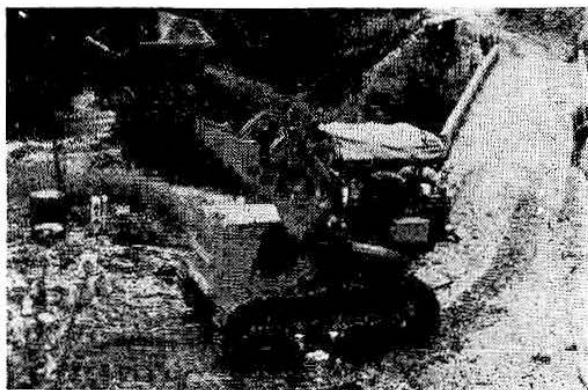
観光道路の整備

(城山線の簡易舗装工事)



豪雪、災害に備えてドーザシヨベル
(重量12屯 バケツト 容量1.2m³)

↓ 平時は土木事業に活躍



町道橋の新設永久化された橋梁

橋名	橋種	規模		工事費	施行年度	摘要
		巾員	延長			
朝日橋	永久橋	5.5 ^M	1271 ^M	13,330	34~35	都市計画街路 草野~大家庄線
上朝日橋	水橋	2.7	109.5	4,680	34~35	谷~岩崎線
高橋橋	永久橋	5.5	190	3,070	36	殿町~下山新線
上舟川橋	同	5.5	170	2,470	37	越~花房線
下野橋	同	2.7	23.4	880	39	藤塚~下野線

種別	規模	工事費	施行年度
護岸	護岸欠壊 518.4 ^M	15,430 ^{千円}	35~37
農地	流失埋没 9.6 ^反	1,730	37

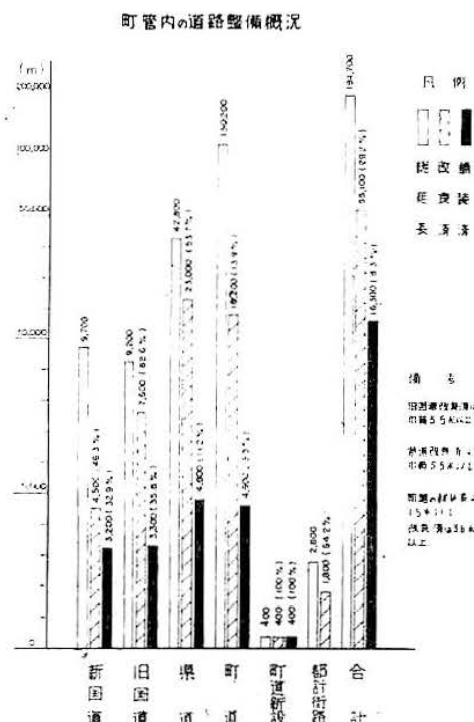
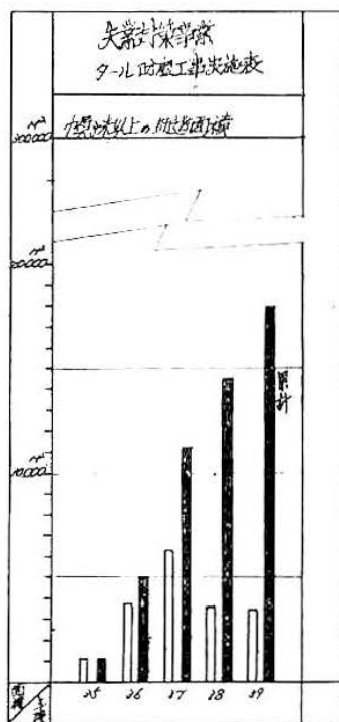
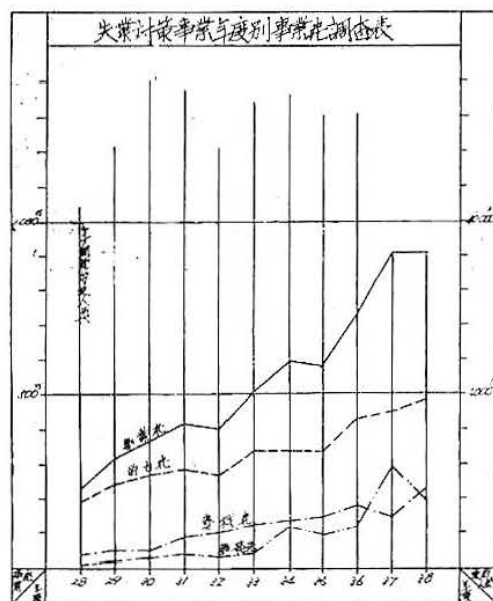
↑ 改修なった南保外二地区用水
(延長3.460m)

朝日町管内道路整備概況

朝日町内道路の大動脈、新国道八号線の新設とあって、国、県道の改良が急速に進められている。町道においては、往年念願されていた主要橋梁も新設改良された。

災害復旧事業

昭和三十四年八月二十六日の大豪雨災害により笹川支流の七重谷川がはんらんし、河川農地が一望河原化した、三カ年間に完全回復した。



よりよき日本人となるために

— 教育10年のあしあと —

大きな夢、実現可能な止夢を託されて朝日町が発足して十年、新町の最大の魅力は一町一村でなし得ぬ大きな事業がなし得られることであった。この間教育の面で行なった事業を顧み、その感を多少味わうことができる。ただ遺憾なことは、野中の分離の問題がその児童に与えた不幸である。その他は、山崎小学校の増改築をはじめ多くの施設等の改築新築が行なわれたことなどに合併の偉力を示してくれている。

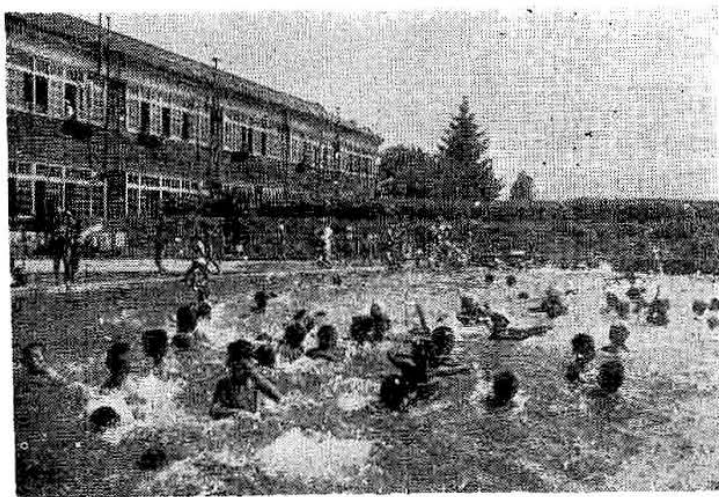
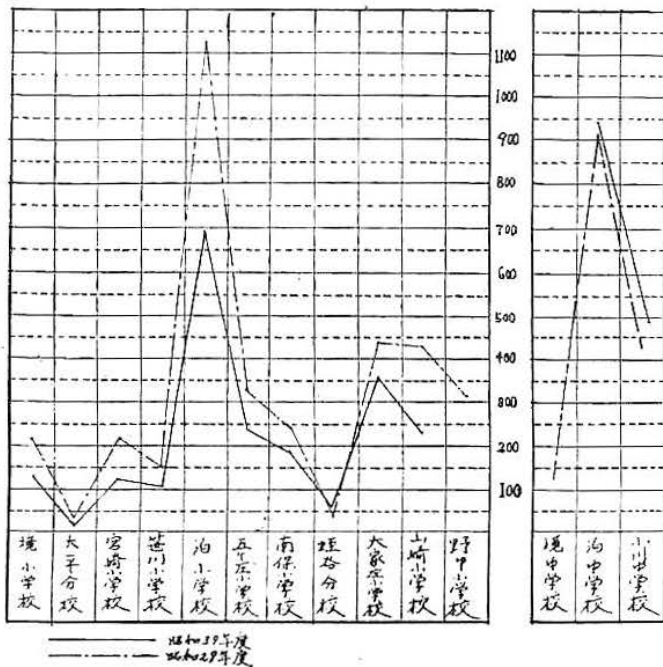
山崎校は地理的に不利な条件を逆に活用した姿において増改築され、県下でも稀に見る景勝の環境をかもし出した。海から遠い大家庄では、国民皆泳の線に添う住民の総意により、プールがその小学校に新設され、山崎、五箇庄までその恩恵に浴している。宮崎校の屋体が老朽の極に達し、五箇庄校の屋体は近代体育に不向な面が多く、共にその改築が久しく要望されていたもので、これが年次新装だったことはその児童たちの体位向上はもちろん、校下民和楽の道場の意味においてもまことに質すべきことである。更に体育の場として重要な位置にある小川中学校グラウンドの大拡張の実現したことも限らない喜びの一つである。

泊小、泊中、泊高と叫ぶの中心部に学校街が形成されていたことは教育環境の好雰囲気をつくってはいったが、狭隘な地域に立し、動きのとりぬ形であり、三校とも不自由な生活を繰返していたのである。この打策として泊中学校と境中学校の統合案が採択された。幾多の困難をのり越え、風光明媚な上横尾の地に近代的教育を示す統合泊中学校の校舎が建設された。その教育内容もそれに伴うことが期待されつつ、屋体とだければ幸いである。

泊小、泊中、泊高と叫ぶの中心部に学校街が形成されていたことは教育環境の好雰囲気をつくってはいったが、狭隘な地域に立し、動きのとりぬ形であり、三校とも不自由な生活を繰返していたのである。この打策として泊中学校と境中学校の統合案が採択された。幾多の困難をのり越え、風光明媚な上横尾の地に近代的教育を示す統合泊中学校の校舎が建設された。その教育内容もそれに伴うことが期待されつつ、屋体とだければ幸いである。

学 校 教 育

昭和29年と昭和39年度の
学校別児童生徒数



大家庄小プール建設

大家庄小学校は海に遠く、児童が川で泳ぐのは危険であり、しかも水泳指導もできないため、大家庄小学校PTAが中心となってプール建設計画が進められ、地区民の賛同を得て25mプールを建設、昭和33年6月完成した。



宮崎小屋体の改築

老朽化してきた宮崎小学校屋内運動場(明治四十一年建築)の改築が地元民から強く要望され、町当局においても、危険建物に指定されている校舎では十分な体育指導もできないので、県教委と交渉の結果、国庫補助対象校の認定を受け、鉄骨の屋内運動場を建築することになり、昭和三十五年八月二十四日着工、同年十一月二十日完成した。

△建築状況▽
とりこわし坪数 一一二、四坪
新築坪数 一二七、〇坪

→みんなの力でこんな 立派な中学校が

昭和三十六年を頂点に、昭和三十七年より生徒数が毎年減少の一途をたどることが予測され、朝日町では新町建設計画の一環として、学校の統廃合を重視、まず旧中学校と境中学校の統合計画をたてた。

昭和三十五年三月二十三日の町議会、統廃合の案件は満場一致で可決され、以後いくつかの問題もあった

が、現在第三期工事まで終了、ほとんどの校舎が完成して、本年四月より境教場の生徒も新校舎で勉強に励んでいる。

年度別建築状況

三十六年度	三〇一坪
三十七年度	五〇〇坪
三十八年度	五四二坪
三十九年度	一六坪(木造校舎移築)
三十九年度計画	一七四坪

屋内体育館五九〇坪は三十九年度中に建築の計画である。

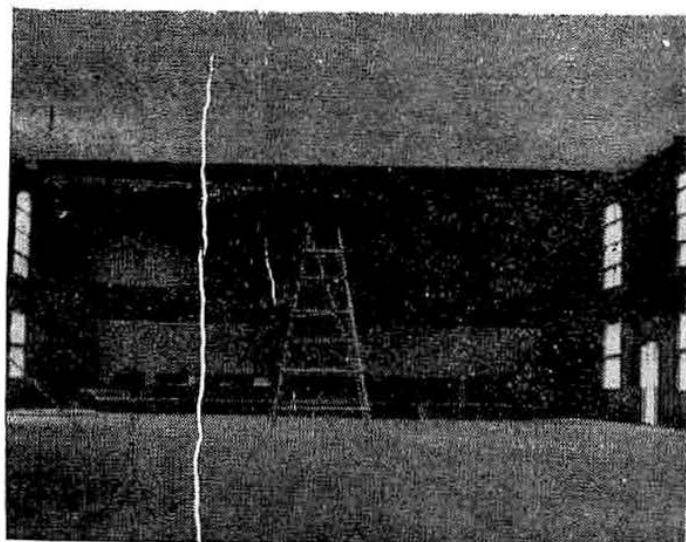


わたしたちが5才のとき朝日町が生まれました。
もうわたしたちは中学3年生です。

五箇庄小屋体の改築

昭和二年に建築したものが室内が暗く、特に天井が低いので、充分な体育指導ができなかった。五箇庄小学校友会では、屋体を改築するよう、町当局に要望するとともに一部地元負担をすることなど、全面的に協力する熱意が示めされた。当局でも、国庫補助認定申請したところ内定があり、昭和三十八年七月三十一日指名競争入札の結果、稲村建設が落札、昭和三十八年八月三日着工、一〇月三〇日工期どおり完成した。

△工事状況▽
とりこわし坪数 一〇四坪
建築坪数 二八坪
その他の工事 (地元負担)
宿直室移築工事 六坪
物置移築工事 五坪

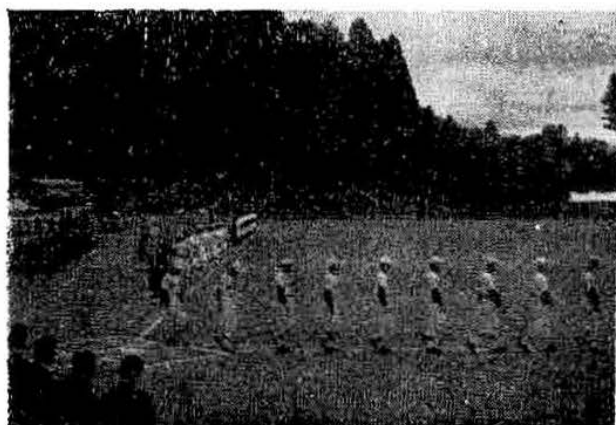
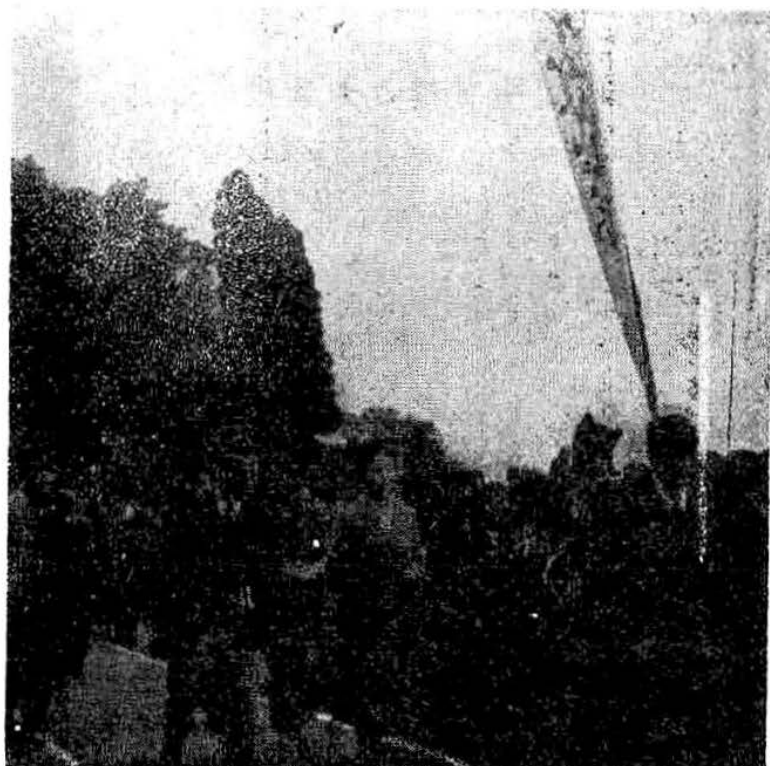


国体準硬式野球 小丸山グラウンド で開かれる

昭和三十三年、第十回国民体育大会が富山県で開催されるにあたり、朝日町小丸山グラウンドでは、十月十九日から二十三日にわたって準硬式野球が行なわれた。

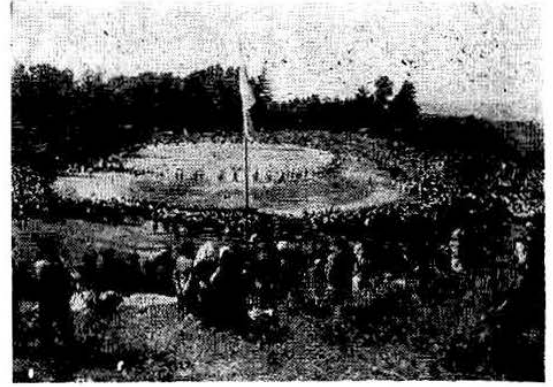
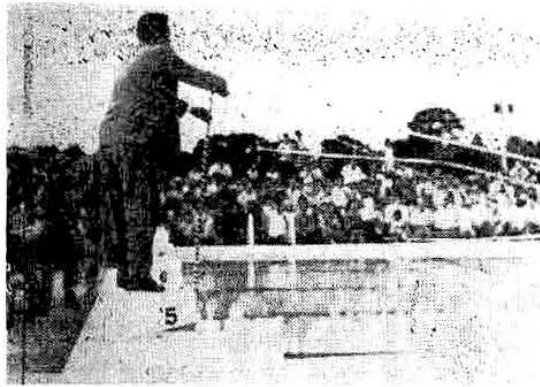
未だかつてない町民の歓迎と応援の中で、全国から選抜された強豪十チームが華々しく覇を競ったのである

(右) 三笠宮妃殿下
来町
(下) 堂々の入場行進



第1回町民体育大会→

昭和二十九年十一月三日の文化の日を期し、朝日町第一回の町民体育大会がはじめての試みとして行なわれ、町民の親睦と、体育向上に大きな成果をあげた。それから十年、そして体育大会も回を重ねること九回、その間雨あり、風あり、晴天あり、大会の内容もまた天候と同様、さまざまな変化をもたらしながら第十一回目の大会をむかえようとしている。



町営プール建設

海岸の侵食により、近海での海水浴が不可能になったので、夏季の健康増進と水泳指導のため、プールの新設が強く要望され、昭和三十七年四月、町民プール建設期成同盟会が結成されて、五〇メートルの建設計画ならびに資金計画がたてられた。町議会では昭和三十八年五月町営プール建設を議決、同月末に着工、八月完成した。

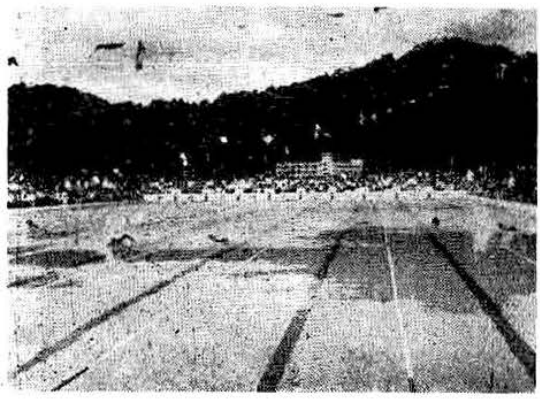
△施設の概要▽

(1) 長水路プール
長さ 五〇メートル
水深 二メートル
スタート及びターン側 一、一メートル
中央一、三メートル
コース 九コース

(2) 子どもプール

(イ) 円形
直径 九メートル
水深 〇、三〜〇、八メートル
(ロ) 変形
一、二メートル
スベリ台付き
〇、二〜〇、七メートル

(3) 管理棟
更衣場、便所、物置、シャワー、洗面所、手洗所、水呑場を設備



社会教育

合”、“笹川の公民館結婚”等は特筆される成果である。
社会教育(公民館)活動として、国や県から表彰されたものは、各地区に枚挙につきないものがあり、公民館の壁にところ狭しとその成果をたたえている。

新町に十公民館設置

朝日町における文化センターとして、各地区に十公民館が設置された。公民館は朝日町社会教育の活動母体となつて、十年間地道に根強く活動を続けてきている。

学校教育と比べ、施設、人、予算、教科書等に恵まれない中で、その活動は地味ではあるが、あるときは広く、あるときは家庭のすみまでも、人の心の中までも、住民の生活の中に残した足跡には大きなものがあり、その歩みの中に数々の成果をあげている。
“大家のバレーボール”
“山崎地区の春季祭礼の統合”



自然博物館建築

天然記念物、「宮崎鹿島樹叢」を中心とする宮崎自然博物館一帯の資料の展示と保管を目的に、昭和三十年九月に廃止された宮崎支所を転用して、同年十二月自然博物館建物を建築した。

成人式

戦後成人の日が制定されて、成人式が行なわれるようになってから、本年度で第16回目を数える。昭和32年1月15日第9回成人式がはじめて全町成人者を一堂に集めて行なわれたが、これが第1回朝日町成人式である。



青年学級開設

昭和二十八年に青年学級振興法が制定され、更に二十九年の合併に伴ない指導体制が充実されて、青年の生活に結びついた学習活動がますます活発に展開された。

その学習活動は地道ながら勤労青年の生活意識の向上、地域社会の発展に少なからぬ成果をあげ、県の優良青年学級表彰を受けた学級も少なくない。

現在、国庫補助対象学級六、一般学級四の学級が開設されており、約三〇〇名の学級生が働きながらここに学んでいる。



社会教育研究大会

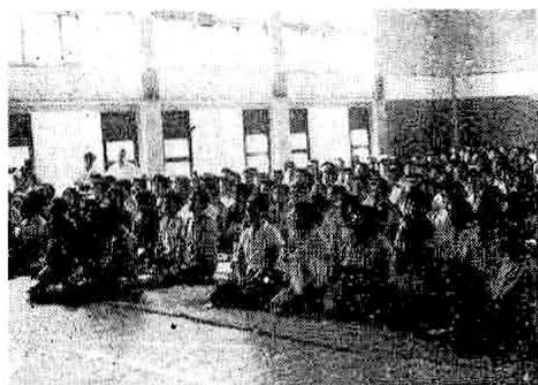
昭和30年11月、町社会教育の振興をはかるため、第1回社会教育研究大会が開催された。

以後、回を重ねること5回、新生活運動の推進等社会教育の重要性が強調され、その成果をあげている。



昭和三十五年以来文 嘱を受けて、それぞれ主眼に基づい
部省は婦人教育の振展 て一年間みつちり勉強し、良き主婦
充実のため、文部省委 になるうと張り切っている。
嘱婦人学級を開設し、
一婦人学級四万円の委
嘱費を交付し、市町村
の教育委員会に開設さ
せている。

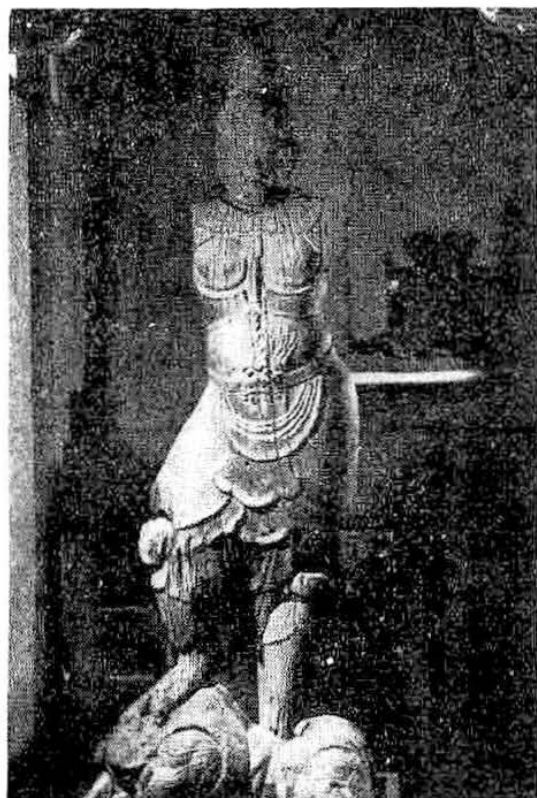
朝日町文部省委嘱婦
人学級は、昭和三十七
年大家主婦人学級を皮
切りに、三十八年は県
指定五箇庄婦人学級を
開設し、両学級ともに
多大の成果をあげ、な
お三十九年度は、五箇
庄、泊二婦人学級が委



正しい野外活動のありかたを求めて

青少年の野外活動が、年を追って活発になっている今日、
野外活動に対する正しい知識と技能を身につけ、有能な野
外活動指導者を養成する目的で、昭和32年7月県教委と共
催で、第1回朝日町教育キャンプ指導者講習所を棚山で開
設した。

以来第2回上若狭、第3回城山、第4回棚山、第5回境
の馬場、第6回城山、第7回長野県本崎湖畔、第8回城山
と回を重ねること8回その間に育成された指導者は200名
以上を数え、健全な野外活動を推進している。



婦人の地位を高めるために

昭和三十五年以来文 嘱を受けて、それぞれ主眼に基づい
部省は婦人教育の振展 て一年間みつちり勉強し、良き主婦
充実のため、文部省委 になるうと張り切っている。
嘱婦人学級を開設し、
一婦人学級四万円の委
嘱費を交付し、市町村
の教育委員会に開設さ
せている。

わが町の文化財をたずねて

朝日町は越の国の最北端に位置
し、中央に遠く離れてはいたが、昔
から文化の町として県下に広く知ら
れており、古くは縄文土器、石器を
中心とする遺跡の中に古代文化がし
のぼれ、美術、古文書、民俗資料、
史蹟名勝、天然記念物等数多く貴重
な文化財がある。

しかし、これらの文化財は一部の
愛好者、研究者によって細々と調査
研究されていたにすぎず、これは町
民の文化的向上のため、まことに残
念なことである。昭和三十八年十
二月文化財保護条例を制定し、調査
委員会を設けて、文化財の調査顕彰
にあたっている。

歴史は町民の手で作られる (後記に代えて)

歴史的な町村合併が行なわれて
以来既に十年、わが町の公報「あ
さひ」も百八号を数えるに至っ
た。十年は長くして短く、短くし
てまた長い。時間と空間を乗り超
えてきた十年は実に歴史的な世紀
の縮図であり、幾星霜と
いう古風な表現もまたそ
うのために作られた言葉の
ようにも思える。

公報「あさひ」はこの
十年間、町の歴史を正し
く記録し、これを普く町
民に知らせてきた。それ
らの一つ一つが今や回顧
というロマンチックなこ
とばによって引き出され
旅にあるわが子が母の許
に帰り来れるに似て、な
つかしくもまた愛着禁じ
得ないものがある。

百八号を記録するこの
「あさひ」が発刊される
に至ったいきさつや、こ
こに至るまでの間、幾多
の困難に遭遇し、人知れぬ苦勞を
したことも、既に百号記念特集号
に述べたとおりである。

内容、規格、形式、その他予算
上の問題等、数え切れない幾多の

問題を克服し、ようやく本年度よ
り常時六ページ建発行まで漕ぎつ
けた。

新聞雑誌や週間紙と違った性格
をもつ立場から、また公報という
一つの形式に陥り勝ちな編集を警
戒しながら今日まで号を過つて来
たが、ときには町民の中から堅苦
しい偏回編集や、記事内容の貧困
等まで指摘を受けることさえあつ
たが、常に町民に親しまれる公
報、待たれる公報をモットーとし
て編集してきたことを付言してお
きたい。

百八号を記録するわが公報「あ
さひ」が、ここに町村合併十周年
を記念して特集号を編集し、町民
各位のお手許におくる。

中の記事一つ一つが町民全体に
とって「知友遠来、また葉しから
ずや」の感を深くすることを疑わ
ない。

願わくば懐古主義や、趣味でな
く、大げさな表現だが、温古知
新、十年の歩みの中のの一つ一つの
記事を掌中で温め、なでさすり、
すかして見ようではないか。その
中から必ずや新しい町発展の鍵が
ひそんでいることが発見されるで
あろうことを期待してやまない。